

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

シャジクモ

Chara braunii

坂山英俊（神戸大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 藻類分科会



環境省 編

令和7（2025）年3月



この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：坂山英俊. 2025. シャジクモ. 環境省（編） 第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物.

Citation: Sakayama, H. 2025. *Chara braunii*. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook: Threatened wildlife of Japan*.

シャジクモ

Chara braunii

カテゴリー判定結果		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		B1ab	
基準 A: -	基準 B: VU	基準 C: -	基準 D: -	基準 E: -	
B1. 出現範囲が 20000 km ² 未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。					
a) 生育地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。					
【過度に分断】					
これまで生育が報告された地点は不連続に分布している。また、主に人によって管理された二次的自然に生育する種であるが、各生育地点の面積はとても小さく、人の管理が放棄されると容易に生育地は消失する。					
b) 出現範囲、生育地面積、生育地の質、生育地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。					
【判断理由】					
主に防災、水利、漁業、稲作を目的とした湖沼や水田、ため池を生育地としており、営農形態の変化や水害対策による管理放棄、埋め立て等により、生育に適した環境が減少している。					
評価分科会： 藻類分科会					

概要

日本国内全域に分布している。近年の淡水生態系の悪化によって多くの湖沼で消滅している可能性が高い。ため池や水田などでは比較的多く確認されるが、護岸整備、農薬の使用、自然遷移により減少している。

基礎情報

【形態】

雌雄同株。雌雄両性器は小枝の節につき、輪生枝の基部には生じない。皮層を完全に欠く。輪生枝に互生する托葉冠を1段持ち、托葉冠の形状は乳頭突起状に退化しているものから1mm程に尖った形にまで変異が見られる。小枝の末端は苞細胞が集まり冠状となる。雌雄両器は輪生枝の節部に生じる。卵胞子は黒色で、楕円体、螺旋縁は7~12本。卵胞子膜は平滑ないし細かい顆粒状に見える。

【生活史】

卵生殖により接合子（卵胞子）を形成し、有性生殖を行う。

【生育環境】

湖沼、ため池などの水深の深い環境に生育する一方で、水田などの浅い水環境にも生育する。

生育環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】田地・畑地, ため池・池沼, 湖・ダム湖 【陸域_平地部】田地・畑地, ため池・池沼, 潟・湖・ダム湖
---------	--

国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域, (4) 河川・湿地地域
---------	----------------------------

【分布域】

世界各地に分布し、日本では国内全域で広く生育が記録されている。

現在の生育状況

【分布域の現況】

分布域に大きな変化はないと考えられるが、各生育地は縮小傾向にあると考えられる。

【生育地の現況】

営農形態の変化や水害対策による管理放棄、埋め立て等により、生育に適した環境が減少している。

【個体数の現況】

詳細については不明。

存続を脅かす要因

大型湖沼やため池においては富栄養化の進行、ソウギヨの放流、護岸整備、管理放棄に起因する環境の遷移による環境の変化によって消滅していると考えられる。水田では、農薬の使用によって減少している可能性が高いと考えられる。

要因の区分：	(過去)	水質汚濁, 農薬汚染/化学物質汚染, 捕食（外来種による）, 管理放棄
	(現在)	水質汚濁, 農薬汚染/化学物質汚染, 捕食（外来種による）, 管理放棄

特記事項

いくつかの水田、ため池、湖沼から採取された本種の培養株が国立環境研究所の微生物系統保存施設で維持されている。また、卵胞子の凍結保存法の開発も進められている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シャジクモ	<i>Chara braunii</i> C.C.Gmel.	VU
第4次 2019:	シャジクモ	<i>Chara braunii</i> C.C.Gmel.	VU
第4次 2018:	シャジクモ	<i>Chara braunii</i> C.C.Gmel.	VU
第4次 2017:	シャジクモ	<i>Chara braunii</i> C.C.Gmel.	VU
第4次 2015:	シャジクモ	<i>Chara braunii</i> C.C.Gmel.	VU
第4次:	シャジクモ	<i>Chara braunii</i> C.C.Gmel.	VU
第3次:	シャジクモ	<i>Chara braunii</i> Gmelin	VU
第2次:	シャジクモ	<i>Chara braunii</i> Gmelin	CR+EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[要調査野生生物 (D ランク)] 山形県[絶滅危惧Ⅱ類 (VU)] 茨城県[絶滅危惧Ⅱ類] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類 (A ランク) (湖沼型), 要注目] 埼玉県[絶滅危惧Ⅱ類 (VU)] 千葉県[一般保護生物 (D)] 東京都 (本土部) [本土部: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)] 神奈川県[注目種] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧Ⅱ類 (VU)] 京都府[要注目種] 兵庫県[C ランク] 鳥取県[絶滅危惧Ⅱ類 (VU)] 愛媛県[準絶滅危惧 (NT)] 福岡県[絶滅危惧Ⅱ類] 長崎県[準絶滅危惧種 (NT)] 宮崎県[絶滅危惧Ⅱ類 (VU-g)] 鹿児島県[絶滅危惧Ⅱ類] 沖縄県[絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 今堀宏三, 1954. 日本産輪藻類総説. 金沢大学. 234pp.
- 今堀宏三・加崎英男, 1977. 輪藻類. 広瀬弘幸・山岸高旺 (編), 日本淡水藻類図鑑, pp. 761-829. 内田老鶴圃, 東京.
- Kasaki, H., 1964. The Charophyta from the lakes of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 27: 215-314.
- Kato, S., Sakayama, H., Sano, S., Kasai, F., Watanabe, M. M., Tanaka, J. & Nozaki, H., 2008. Morphological variation and intraspecific phylogeny of the ubiquitous species *Chara braunii* (Charales, Charophyceae) in Japan. Phycologia 47: 191-202.

- Kato, S., Misawa, K., Takahashi, F., Sakayama, H., Sano, S., Kosuge, K., Kasai, F., Watanabe, M. M., Tanaka, J. & Nozaki, H., 2011. Aquatic plant speciation affected by diversifying selection of organelle DNA regions. *Journal of Phycology* 47: 999–1008.
- Wood, R. D., 1965. Monograph of the Characeae. In: R. D. Wood and K. Imahori (eds.), *A revision of the Characeae*, vol. 1, pp. 1-904. J. Cramer, Weinheim.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Chara braunii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Chara braunii* is listed as VU under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 20,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

- a. Severely fragmented or known to exist at only a single location.
- b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - (i) extent of occurrence
 - (ii) area of occupancy
 - (iii) area, extent and/or quality of habitat
 - (iv) number of locations or subpopulations
 - (v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area Low-altitude area】 Farmland, Reservoir/Pond, Lake/Dam 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Farmland, Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam
Threat types:	Water pollution, Pesticide/Toxic chemical pollution, Predation (by alien species), Abandonment of management
Law designation status for conservation	—



©坂山英俊 (神戸大学)

執筆者: 坂山英俊 (神戸大学)
Author: Hidetoshi Sakayama

公表年月：2025 年 3 月